

グローバルファンド：

新たに 92 億米ドルの無償資金供与を承認。

70 カ国超でエイズ、結核、マラリアとの闘いを加速

2024 年 1 月 11 日

ジュネーブ – 世界エイズ・結核・マラリア対策基金(グローバルファンド)はこのほど、2024 年から始まる 92 億米ドルの無償資金供与を承認しました。今年 152 件の新規供与を開始し、2024-2026 年の 3 カ年に渡り、三大感染症の終息に向けた救命活動の継続と、持続可能にして気候変動にも屈することのない保健システムの構築において、70 以上の国々を支援していきます。

グローバルファンド理事会は 2022 年 11 月、第 7 次増資の 157 億米ドルという記録的成果を受けて、エイズ、結核、マラリア対策を増強し、保健システムを強化するために過去最大の投資を承認しました。2024-2026 年に渡り 137 億米ドルを投じるというもので、うち 131 億米ドルが 120 カ国超への分配されます。

今後 3 年間の国別分配金は最大 40 億米ドル残されており、これらの投資は後日開始される予定です。

グローバルファンドのピーター・サンズ事務局長は、「世界で最も恐しい疾病との闘いにおいて前進し続け、より強靱で包摂的な保健システムの構築を支援することが、数百万の命を救い、保健にはびこる不平等に取り組み、コミュニティの繁栄を促すことにつながります。最も貧しく、最も脆弱である多くの人々が、気候変動、紛争、経済的ストレス、人権侵害などにも翻弄されているときにあっては、効果が実証されているこうした救命目的の介入に対し、継続的かつ十分な資金を確実に提供していく必要があります。ドナーからの変わらぬ支援、そしてこれらの新規無償供与の迅速かつ効果的な策定に尽力してくれたパートナーシップ全体にわたるステークホルダー各位に、心から感謝しています」と話しています。

各国パートナーはこの 1 年間にわたり、(中央政府、およびコミュニティや保健の専門家が各国におけるグローバルファンド支援プログラムを策定もしくは指導する)[国別調整メカニズム](#)との協働のもとで、国レベルでの疫病対応プログラム向けに、詳細な資金供与申請書を作成しました。グローバルファンドの無償資金供与プロセスの一環として、申請はすべてが独立した[技術審査委員会](#)による審査を経たうえで、案件認定委員会によりその質と総合性が評価され、その後グローバルファンド理事会の最終承認を得ることになります。理事会承認が下りて初めて供与確認書に署名がなされ、第 1 回供与が可能となります。

グローバルファンドは三大感染症対策向けの無償資金供与に加え、支援対象国が新型コロナ対応メカニズムからの資金を保健システム強化とパンデミックへの備えに振り向けるための支援も継続しています。これには医療用酸素、コミュニティのシステムとヘルスワーカー、サプライチェーン、試験所、サーベイランス、データシステムと相互運用性、廃棄物管理への 20 億米ドル超の投資が含まれています。